

沖縄科学技術大学院大学（OIST）の 会議施設及び国際会議の招致事例について

令和8年2月
内閣府沖縄振興局
沖縄科学技術大学院大学室

沖縄科学技術大学院大学 (OIST) について

令和7年11月時点

1. 目的

沖縄において世界最高水準の教育研究の推進を図り、もって①沖縄の振興と自立的発展、②世界の科学技術の発展に寄与することを目的とする(沖縄科学技術大学院大学学園法(平成21年法律第76号))。

2. 特色

大学院大学の設置主体として学校法人「沖縄科学技術大学院大学学園」を設立。
沖縄振興の観点から国が財政支援を行う(学園法)。

- ・学部の壁のない組織(単一の研究科・専攻)
- ・5年一貫制の博士課程のみ
- ・教育研究は英語で行い、学生・教員の半数以上は外国人。



(期待される沖縄振興への効果)

- ・科学技術の国際的な拠点の形成
- ・イノベーション・エコシステムの形成
- ・科学技術に関する人材の育成 等

3. 取組状況

※肩書、人数はOISTのHPより

○平成23年11月に学校法人を設立(大学院大学は平成24年9月に開学)。

(学園の理事等)

理事長・学長：カリン・マルキデス(元スウェーデン・チャルマース工科大学学長)

理事(常勤4名(理事長含む)、非常勤13名)：ノーベル賞受賞者等の科学者、
沖縄振興や大学経営に係る有識者等

(R7.11時点)



カリン・マルキデス
理事長・学長



キャンパス外観

○教員92名(23の国・地域、外国人63%)を含め、計669名(うち外国人68%)が研究に従事。
(物理学、化学、神経科学、海洋科学(海洋気候変動含む)、環境・生態学、数学・計算科学、
分子・細胞・発生生物学、工学・応用科学の8分野を基礎とする先端的・学際的な研究)(R7.9時点)

○学生303名(54の国・地域、外国人78%)で、累積で204名が卒業(R7.9時点)。

○教員の評価は、採用時及び原則5年ごとに、外部の評価委員会により世界的に高いレベルの基準で実施。

○平成22年3月に第1研究棟、平成24年6月に第2研究棟、平成27年6月に第3研究棟、
令和2年4月に第4研究棟、令和5年4月に第5研究棟を供用開始。

OISTメインキャンパス



キャンパス内の主な会議施設（キャンパス内の位置）

OISTキャンパス位置関係
(恩納村全体図)



OISTメインキャンパス



OISTシーサイドキャンパス

Seaside House
(Seminar Room, Chura Hall)

シーサイドハウス※
(セミナールーム、ちゅらホール)

※令和8年1月～令和9年1月までの間は、改修工事のため貸出休止となる予定。

キャンパス内の主な会議施設

※2025年9月1日申込分より利用料金が改定。

OISTメインキャンパス



<講堂>

- ・ 493名収容
- ・ 利用料 200,000円/終日



<ミーティング・ルーム1>

- ・ 最大130名収容
- ・ 利用料 35,000円/終日



<セミナールームB250>

(シドニー・ブレナー レクチャーシアター)

- ・ 150名収容
- ・ 利用料 40,000円/終日



<セミナールーム>

- ・ 65名収容
- ・ 利用料 50,000円/終日



<ちゅらホール>

- ・ 65名収容
- ・ 利用料 50,000円/終日

会議施設の詳細・利用申請の流れはOISTのウェブサイトから確認可能。

・ <https://www.oist.jp/ja/conference-venues/booking>

Theory of Quantum Computation, Communication and Cryptography (TQC 2024) 【和訳： 量子計算・通信・暗号理論会議 2024】

1. 会議概要

- ・量子情報科学に関する国際会議で、2024年で第19回目の開催。
- ・2024年9月9日～9月13日の4日間開催され、日本を含む31の国・地域から355名が参加。

2. 開催地の検討から開催までのスケジュール

- ・2023年4月 検討開始
- ・2023年6月 開催地について、OISTが立候補
- ・2023年8月 OISTでの開催が決定
- ・2024年1月 プログラム委員会及び招待講演者の発表
- ・2024年4月16日 参加者の登録を開始
- ・2024年7月31日 参加者の登録を締切
- ・2024年9月9日～13日 TQC 2024 開催



3. 開催地決定の主な要因

- ・アジアに位置しているため、欧米だけでなくアジア地域からの参加者も見込みがあった。
- ・沖縄は観光地としても人気があり、参加者にとって魅力的な開催地。
- ・OISTには十分な収容人数を確保できる講堂、複数のセミナールームを同時に使用できる設備が整備。
また、人数に限りはあるが、経済支援が必要な参加者へ、学内の宿泊施設の無料提供を実施。
- ・沖縄MICE学術会議開催支援により、最大200万円の補助金を受けられる見込みがあった。

4. 誘致した成果

- ・量子情報分野における最新研究の共有とネットワーク構築が実現。
- ・沖縄開催により、日本の研究拠点としての認知度向上に寄与。
- ・若手研究者の交流促進により、長期的な人材育成にも寄与。

5. 今後の展望

- ・本会議で構築した国際的な研究ネットワークを活用し、共同研究の推進や、同分野の国際学会誘致に向けて、沖縄開催の可能性を検討中。

Cephalopod International Advisory Council 2025 in Okinawa (CIAC 2025) 【和訳：国際頭足類諮問会議 2025 in 沖縄】

1. 会議概要

- ・頭足類に関する国際会議で、1981年から約3年に1回の頻度で開催。
- ・2025年10月25日～11月1日の8日間開催され、日本を含む33の国・地域から284名（うち36名がオンライン）が参加。

2. 開催地の検討から開催までのスケジュール

- ・2022年 主催者より、2025年の開催に向けてOISTでの実施可否について打診
- ・2023年11月 正式に会場をOISTとすることが決定
- ・2024年8月中旬 OISTによる共催が確定
- ・2025年10月25日～11月1日 CIAC 2025 開催

3. 開催地決定の主な要因

- ・主催者が日本での開催を希望し、直近の日本開催（2015年）が北海道であったことを踏まえ、今回は沖縄での開催を計画。
- ・OISTでは複数の研究ユニットにおいて頭足類に関する研究が進められており、学術的な交流の場として最適。
- ・主催者の一人がOISTにおける客員研究者として頭足類研究に携わっていた経緯がある。

4. 誘致した成果

- ・頭足類分野に関する最新研究成果の発表および活発な国際的議論が行われた。
- ・沖縄開催により、日本国内の研究機関のプレゼンス向上に寄与するとともに、海外研究者に対して沖縄および日本の研究環境を発信する機会を創出。
- ・国内研究者・学生にとって、トップレベルの国際会議にアクセスできる貴重な機会となり、人材育成および国際的ネットワーク形成に大きく貢献。

5. 今後の展望

- ・本会議を通じて構築された国際的な研究ネットワークを基盤として、共同研究の検討や国際共同プロジェクトへの発展が期待。
- ・本会議を契機として、関連分野の国際会議やワークショップの沖縄開催の可能性についても、関係研究者間で情報交換・検討が進められてる。
- ・若手研究者や学生の国際的な交流が促進され、中長期的な研究力・人材育成の強化につながることを期待。

